

主催：立命館大学人文科学研究所重点プロジェクト（グローバル化と地域の多様性）
立命館大学人文科学研究所：比較福祉国家研究の最前線⑨

無料

事前申込制

途中入退室自由
(オンライン会場)

出 版 記 念 合 評 会

宮本太郎

『社会保障改革の岐路』

(岩波書店、2026年)

2026年11月14日(土)

13:00~15:30

ハイブリット形式

対 面

対面会場：キャンパスプラザ京都

(JR京都駅烏丸中央口すぐ) 6階 第1講習室



報告者 宮本太郎 (中央大学教授)

討論者 櫻井純理 (立命館大学教授)
鎮目真人 (立命館大学教授)

司 会 加藤雅俊 (立命館大学教授)
お問い合わせ：mkato@fc.ritsumeai.ac.jp

お申し込み

<https://forms.cloud.microsoft/r/vpG4n6xCZc>

※11月12日(木) 23:59までにお申し込みください



日本の社会保障制度はどのような特徴を持ち、どこに向かうべきなのか。そして、これまで何度も改革が試みられながらも、なぜうまくいかなかったのか。これらの問いは、学術的に重要なだけでなく、現代社会に生きる私たちにとっても重要なものである。本書において、日本の福祉国家研究を牽引するだけでなく、政策形成にも影響を与えてきた著者は、「セーフティネット」概念に注目し、日本の特徴を批判的に分析し、一人ひとりの生存と承認を可能にするセーフティネットのあり方を多角的に検討し、具体的な政策提案を行う。

本研究会では、著者から本書の概要とポイントをご紹介いただき、日本の労働政策と社会福祉政策に関して優れた研究を発信してきた二人の討論者からコメントをいただいた上で、ディスカッションを行う。本研究会が、日本の社会保障制度の現状と課題、そして、より良いあり方を考える機会となれば幸いである。